

東住吉区地域福祉サポート事業にかかる事業評価結果

(1) 事業の実施状況の評価

評価	左記の理由
3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的、体系的な体制が整備されており、育成プログラムも多彩である。</li> <li>・支援体制は十分に整っているため、今後も継続していくことが望まれる。</li> </ul>

(2) 事業の実施体制の評価

評価	左記の理由
3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東住吉区社会福祉協議会として事業目的達成に向けた明確な方向性が示されている。</li> <li>・実施体制は適切であり、継続が望まれる。</li> </ul>

(3) 目標の達成状況

評価	左記の理由
3.4	<p>≪「東住吉区地域福祉サポートセンター」の運営について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターが入れ替わる際の、新採サポーターへの引継ぎもしっかりできている。</li> <li>・サポーターの似顔絵チラシは親しみやすく広報の工夫が見られる。</li> <li>・事業の認知度向上に向けた取り組みについては、東住吉区社会福祉協議会の公式キャラクターをより活用するほか、地域の社会資源と連携するなど、検討する余地がある。</li> </ul> <p>≪「地域相談窓口」の運営について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待っているだけでは対象者は拡大していかないが、大きな間口を設定して広く受けとめる体制は評価できる。「ワンストップ型」「伴走型」のサポートに期待している。</li> <li>・地域に根ざし、誰でも気軽に相談できて、必要な支援につなげる“総合相談窓口”であることを、サポーター自身が自覚し、その役割を果たしていくことが求められる。</li> <li>・他の要件で来館したことをきっかけとして相談につなげる、ということをも後も継続してほしい。</li> </ul> <p>≪「見守り相談室との連携」について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆるやかな見守り」を積み上げていくことが大切であり、今後も継続が望まれる。</li> <li>・「ゆるやかな見守り」は時代にあった見守り方法といえるが、見守りを行う個人の能力により地域格差が生じないようにしてほしい。</li> </ul> <p>≪「生活支援コーディネーターとの連携」について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な工夫、仕掛けがあり積極的に取り組んでいる様子が伺える。</li> <li>・福祉関係団体やボランティア団体とも交流、情報交換できるような場を設けることで、新たな人材や課題を発掘できる機会となるので連携を進めてほしい。</li> <li>・高齢者支援をきっかけに、世帯や家族の複合的課題を早期に把握し、予防的に支援する取り組みとなることが期待される。</li> </ul> <p>≪「区・区社協との連携」について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携の要となっている強みを活かし、この取組を他の課題にも繋げて展開していくことを期待する。</li> <li>・子ども食堂や障がい児を支える団体や活動との繋がりに期待する。</li> <li>・14地域それぞれの地域性に応じた活動は高く評価できる。</li> </ul>

#### (4) 各委員の評価

##### ①事業の実施状況の評価

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.5	3.0	4.0

##### ②事業の実施体制の評価

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.5	3.0	4.0

##### ③目標の達成状況

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.3	3.2	3.6

※評価指標については別紙を参照

#### (5) 主な意見等

- ・ 地域福祉サポーターの育成や支援を行うのであれば、小中学校のインクルーシブ教育や地域の障害者施設・事業所の見学も取り入れてほしい。
- ・ 地域住民のニーズや地域福祉課題の把握のため、アンケートを実施するのであれば、「集合調査的手法」や「印象操作」のリスクが伴わないような手法を検討してほしい。
- ・ アンケート調査の取組については、民生委員と協力して、地域で気になる家庭にアンケート用紙をポスティングしたことで、相談への繋がりができた好事例もあるため、継続して取り組んでほしい。
- ・ 「地域相談窓口」の運営では、子どもや障がい者（児）、外国籍の人の声も多く集まるよう発展してほしい。
- ・ 「情報提供」や「情報発信」については、より積極的に機会を設け、継続的に実施していくことが望まれる。
- ・ ICTの活用に関する相談もあるということだが、誰もが情報弱者とならないような観点も含め、一人一人の状況に応じた丁寧な個別対応をしてほしい。
- ・ 区・区社会福祉協議会と連携して実施された、災害ボランティアセンター開設訓練は今後も続けてほしい。
- ・ 社会的な援助網の内外の切実な声を拾い上げて可視化・集約し、関係機関と連携し継続的に「伴走」していくことが必要。